

草の上 1976年(昭和51年)西川一平(前会長)

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第66期株主通信をお届けいたします。



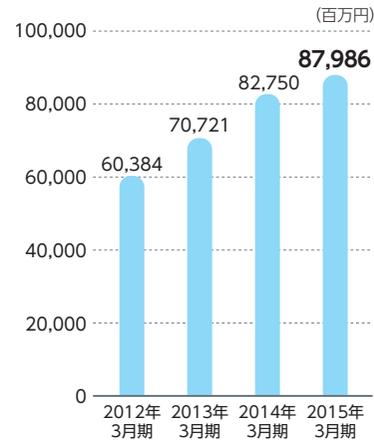
西川ゴム工業株式会社

## 財務ハイライト

### 売上高

87,986  
百万円

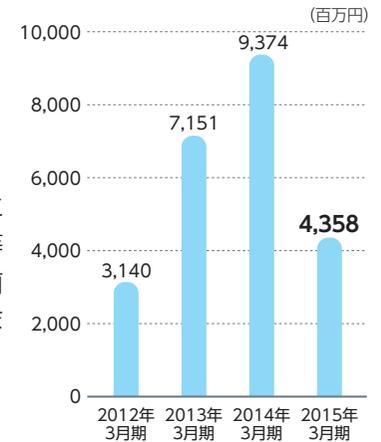
国内自動車生産は前年を下回ったものの、海外生産が前年を上回った結果、前期比6.3%増となりました。



### 経常利益

4,358  
百万円

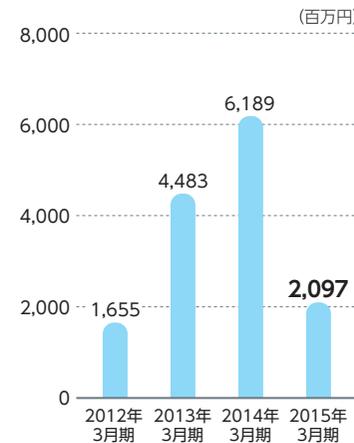
メキシコ、インドネシアにおける量産対応費用等が増加したことから、前期比53.5%減となりました。



### 当期純利益

2,097  
百万円

前期比66.1%減となりました。

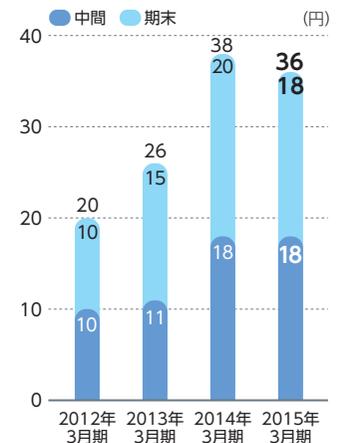


### 1株当たり配当金

36円

当期の期末配当は1株当たり18円とさせていただき、中間配当金をあわせた年間配当金は1株当たり36円となりました。

※2014年3月期の年間配当には記念配当2円が含まれております。



## セグメント別の業績

### 自動車用部品

米国の堅調な売上に支えられ、売上高は835億65百万円(前期比7.2%増)となりましたが、営業利益については国内外の生産拠点において各種要因に伴う費用が増加したことから、41億51百万円(前期比49.0%減)となりました。

### 一般産業資材

主力分野である住宅市場において消費税率引き上げに伴い新設プレハブ着工戸数が前年を下回った結果、売上高は44億20百万円(前期比7.5%減)、営業利益は4億17百万円(前期比39.2%減)となりました。

当期の事業環境と業績について教えてください。

**A** この一年を振り返りますと、消費税増税による個人消費の低迷が見られましたが、政府の金融緩和政策等により円安・株高が進み、景気は緩やかに回復している感が見受けられました。

海外においては、一部新興国経済の成長率が鈍化しましたが、先進国を中心に回復を続け、世界経済全体としては安定的に推移したかと思います。

自動車業界におきましては、国内自動車生産台数が上期は前年と同等の水準となりましたが、下期は駆け込み需要が発生した前年に比べ生産台数が減少した結果、通期においては前年を下回りました。海外生産台数は、世界経済の回復を背景に概ね堅調に推移し前年を上回る結果となりました。

この結果、当期の連結売上高は879億86百万円(前期比6.3%増)となりました。しかしながら、営業利益については、国内外の生産拠点において各種要因に伴う費用が増加したことから45億68百万円(前期比48.3%減)、経常利益はダイキョーニシカワ株式会社が持分法適用関連会社から外れた影響もあり43億58百万円(前期比53.5%減)、当期純利益は20億97百万円(前期比66.1%減)となりました。

2020年ビジョンの第1フェーズの総括と第2フェーズへの意気込みをお願いします。

**A** 当社は2012年に2020年ビジョン(連結売上高:1,000億円以上、連結営業利益率:10%以上、連結総資産営業利益率(ROA):10%以上)を策定し、当期を「助走」として位置づけた第1フェーズの最終年度として活動を推進してまいりました。

この第1フェーズ期間中は国内子会社の再編(株

西川ビッグオーシャンを存続会社として(株)西川ビッグウェルを吸収合併、西川物産(株)を存続会社として西和工業(株)を吸収合併、(株)西川リビングの解散)および新規海外拠点(メキシコ合衆国にニシカワ・クーパー・メキシコ S.A. de C.V.(現 ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. de C.V.)、インドネシア共和国にPT. ニシカワ・カリヤ・インドネシア)を設立し、生産拠点を集約・拡大してまいりました。

また、2009年度より5ヶ年計画で継続実施してきた西川ゴムグループ総コスト低減活動により、国際的な価格競争力を強化するとともに、高コスト体質の改善を図り、確実に利益を生み出すことができる経営体制を構築してまいりました。

2015年度より第2フェーズの「成長」局面に突入します。当社グループでは、引き続き以下の諸施策を実行することで「成長」を体現し、2020年ビジョンの達成に向けて活動を推進してまいります。

国内事業においては、既存部品の売上を維持・拡大させるとともに、新製品開発により、更なる売上拡大を目指します。また、海外関係会社におけるグローバルカーの受注支援を積極的に行ってまいります。

海外事業においては、新規設立拠点であるニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. de C.V. およびPT. ニシカワ・カリヤ・インドネシアの売上拡大を進めるとともに、既存拠点においても生産能力拡大と新規ビジネスの開拓を図ってまいります。

当社は引き続き株主の皆様の付託にお応えするために、グループ一丸となって活動してまいりますので、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

2020年ビジョン

助 走

成 長

飛 躍

第1フェーズ

第2フェーズ

第3フェーズ

2012 - 2014

2015 - 2017

2018 - 2020

代表取締役社長  
西川正洋

## 特集① 米国現地法人・インディアナ州に第3工場を新設

当社は1986年に米国にニシカワ・スタンダード・カンパニー(現ニシカワ・クーパー LLC)を設立し、米国市場にて事業の拡大に努めてきました。現在、インディアナ州にて2か所の工場で、主力製品であるドアウェザーstriップを日系および米国ビッグスリーなどの自動車メーカーに供給しています。

近年、米国では景気回復を背景に製品の受注が急増し、既存工場の生産能力が限界を迎えていました。また、中期的にも受注増が見込まれることから、既存の2工場の近郊、フォートウェインに新たに第3工場(敷地約1万5,000平方メートル、建屋約5,500平方メートル)を新設しました。

投資額は約5億円で、今年7月からの稼働を予定しています。工場の建屋はすでに取得済みで設備の導入がほぼ完了した段階です。人員については第2工場から約150名を移すとともに、新たに約50名を雇用する予定です。

新工場の稼働によって今後、需要増に的確に対応し、米国での売上高を現在の約230億円から、2018年度に約260億円まで増やす計画です。



第3工場の外観



## 特集② 工程管理のIT化

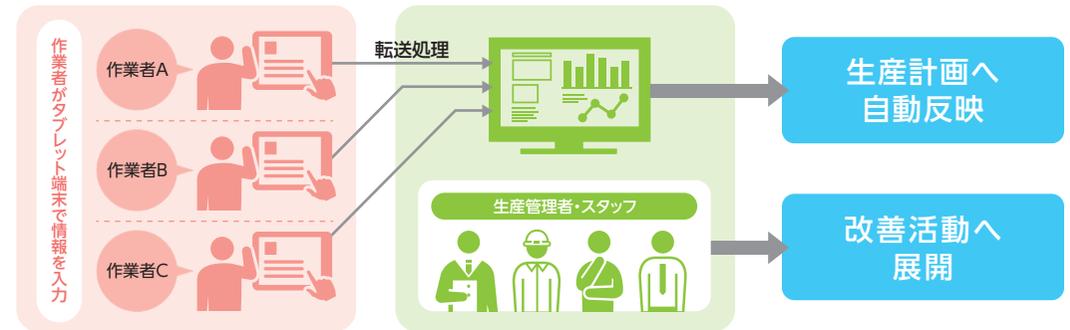
製品の品質維持や生産性の向上に欠かせない工程管理(不良分析、生産実績管理、設備保全等)ですが、当社の主力工場の一つである三原工場では、2014年よりタブレット端末を活用したIT化を進めています。

従来、現場の作業者が当日の品質検査報告書や生産実績報告書を記入し、生産管理者が集計作業をしていたため、不具合情報や生産実績を把握するまでに時間がかかっていましたが、タブレット端末導入後は、作業者が必要情報を入力するだけで自動的に集計される仕組みを構築しました。

これらの仕組みにより不具合情報を早期に把握し、適宜対策することで、不良低減活動の改善スピードを向上させることができました。

また、日々の生産実績を遅滞なく集約することで、各生産工程の生産性を把握し、生産性が低い工程には必要な改善活動を行うことで、工場全体の能率を向上させる取り組みを行っています。

今後は他工場への展開を視野に入れながら活動を続けていきます。



## Topics 株主優待品の変更について

株主様の利便性等の観点から検討を重ねました結果、今回より株主優待制度の内容を下記の通り変更いたします。

なおこちらの変更は平成27年3月31日現在の株主名簿に記録された株主様を対象とした贈呈(平成27年7月贈呈分)から実施いたします。

優待品の  
内容

西川物産株式会社が販売するスキンケア商品  
「ナチュラブ」シリーズ各種およびクオカード

所有株式数	優待の内容
100株以上 1,000株未満	500円相当の商品 およびクオカード500円分
1,000株以上 5,000株未満	2,000円相当の商品詰め合わせ およびクオカード1,000円分
5,000株以上	3,000円相当の商品詰め合わせ およびクオカード2,000円分



※上記の写真は優待品のイメージです。  
実際の仕様とは異なりますのでご了承ください。

## 連結財務諸表(要約)

### 連結貸借対照表

単位:百万円

科目	当期	前期
	2015年3月31日	2014年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	50,206	47,841
固定資産	54,807	45,606
<b>資産合計</b>	<b>105,014</b>	<b>93,447</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	22,788	24,902
固定負債	12,679	9,269
<b>負債合計</b>	<b>35,467</b>	<b>34,171</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	51,125	49,084
その他の包括利益累計額	15,034	7,205
少数株主持分	3,386	2,985
<b>純資産合計</b>	<b>69,546</b>	<b>59,275</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>105,014</b>	<b>93,447</b>

### 連結損益計算書

単位:百万円

科目	当期	前期
	2014年4月1日から 2015年3月31日まで	2013年4月1日から 2014年3月31日まで
売上高	87,986	82,750
売上総利益	16,446	18,515
営業利益	4,568	8,833
経常利益	4,358	9,374
税金等調整前当期純利益	4,340	9,209
少数株主損益調整前当期純利益	2,445	6,999
当期純利益	2,097	6,189

### 連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当期	前期
	2014年4月1日から 2015年3月31日まで	2013年4月1日から 2014年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,999	10,535
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,769	△ 5,685
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,947	△ 3,045
現金及び現金同等物に係る換算差額	44	52
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 673	1,858
現金及び現金同等物の期首残高	17,369	15,511
現金及び現金同等物の期末残高	16,696	17,369

## 会社概要・株式情報 (2015年3月31日現在)

### 会社概要

社名 西川ゴム工業株式会社  
 本社所在地 広島市西区三篠町二丁目2番8号  
 (TEL. 082-237-9371 代表)  
 設立 1949年(昭和24年)4月  
 資本金 33億6,448万660円  
 従業員数 1,324名

### 役員 (2015年6月26日現在)

代表取締役社長	西川 正洋	取締役	佐々木賢治
代表取締役副社長	山本 文治	取締役	内藤 真
専務取締役	児玉 照三	取締役	京本 敬二
常務取締役	福岡 美朝	取締役	小川 秀樹
常務取締役	片岡 伸和	社外取締役	大迫 唯志
取締役	西川 泰央	社外取締役	山本 順一
取締役	米山 昌一	常任監査役(常勤)	吉野 毅
取締役	丸目 義博	社外監査役	白井龍一郎
		社外監査役	藏田 修

### 株式の状況

発行可能株式総数……………48,343,000株  
 発行済株式の総数……………19,995,387株  
 株主数……………1,763名

### ●大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
西川正洋	2,434	12.43
株式会社ハイレックスコーポレーション	1,241	6.34
株式会社広島銀行	957	4.89
西川ゴム工業取引先持株会	949	4.85
西川泰央	748	3.82

(注)持株比率は、自己株式(416,380株)を控除して計算しております。

### 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月開催  
 一単元の株式数 100株  
 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
 期末配当金 毎年3月31日  
 中間配当金 毎年9月30日  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 (特別口座の管理機関) 三井住友信託銀行株式会社  
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社証券代行部  
 電話照会先 ☎ 0120-782-031  
 公告の方法 日本経済新聞に掲載する

## 第66回定時株主総会に関するご報告

平成27年6月26日に開催されました当社第66回定時株主総会におきまして、下記のとおり報告ならびに決議されましたので、ご報告申し上げます。

### 報告事項

- 第66期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)事業報告および連結計算書類ならびに計算書類報告の件
- 会計監査人および監査役会の第66期連結計算書類監査結果報告の件

本件は、上記の内容を報告いたしました。

### 決議事項

- 第1号議案 **剰余金処分の件**  
 本件は、原案のとおり承認可決され、期末配当金は1株につき18円と決定いたしました。
- 第2号議案 **定款一部変更の件**  
 本件は、原案のとおり承認可決されました。
- 第3号議案 **取締役14名選任の件**  
 本件は、新任の大迫 唯志氏、山本 順一氏を含めた取締役14名が選任され、それぞれ就任いたしました。
- 第4号議案 **監査役2名選任の件**  
 本件は、新任の藏田 修氏を含めた監査役2名が選任され、それぞれ就任いたしました。

